

## 富貴寺(豊後高田市)

国東半島周辺に広く分布する天台宗寺院群である六郷山寺院「六郷満山」の一つで、12世紀前半～中頃に宇佐八幡大宮司家によって創建されたとされる





平安時代に宇佐神宮大宮司の氏寺として開かれ、阿弥陀堂(富貴寺大堂)は、宇治平等院鳳凰堂、平泉中尊寺金色堂と並ぶ日本三阿弥陀堂の一つという

[video](#)





# 蓮華山 富貴寺

国宝

阿弥陀堂（通称 富貴寺大堂）

国指定 重要文化財 大堂壁画・阿弥陀如来坐像

古くは「落寺」、また「落浦阿弥陀寺」と称した。寺伝では養老二年（718年）仁聞菩薩の開基という。

創建については詳らかではないが、古文書によれば「富貴寺は宇佐神宮大宮司家であつた宇佐氏代々の祈願所であり、除災招福の祈禱が滞りなく行われている」とあり、富貴寺は宇佐氏によって除災招福の祈願所として、また極楽往生を願うため創建されたことがうかがわれる。

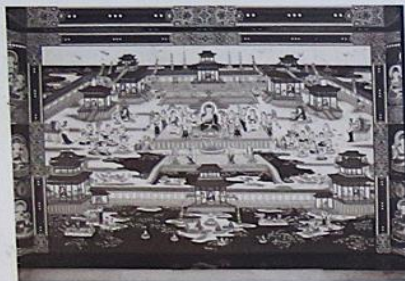
建築様式や壁画の描法などから平安時代末、約九百年前の創建とみなされ、堂内の約3分の2が創建当時のものであることから、九州に現存する最古の木造建築として国宝に指定されている。

阿弥陀如来を本尊とし、極楽往生を願うための修法、あるいはこの世にいなから極楽浄土の世界を体験する為に作られた堂宇は阿弥陀堂と呼ばれ、浄土信仰が高まつた平安時代に盛んに建立された。

本尊阿弥陀如来は薄く滑らかな身体つきや、丸く盛り上がる肉髻、細やかに刻まれる螺髪、浅く流れるように刻まれた衣文などから、お堂の建立と同じく平安時代後期の制作とみられる。

本尊の周りは極楽浄土の様子や、様々な仏、菩薩の姿を描いた壁画で飾られている。長い年月を経たことによる傷みや、第二次世界大戦における空襲の被害などにより、ほぼすべての絵具が剥落しているが創建当時は極彩色で彩られていた。極彩色の創建当時の様子が宇佐の県立博物館にお堂とほぼ同じ大きさで復元されている。

創建当初、一步この堂に足を踏み入れれば、そこは苦しみに満ちた現実世界でなく、麗しき極楽浄土であつた。その中で浄土を体験し、往生を遂げることが出来るようにと祈りを捧げていたのであろう。



須弥壇（復元）



阿弥陀様



須弥壇全体図（復元）

富貴寺の境内には、平安時代末期に建てられた現存する九州最古の木造建造物でもある阿弥陀堂形式の大堂（国宝）が残っている



仁王門/石造の仁王が鎮座している









階段の先に大堂の屋根が見える





そこで、右手を見ると何やら工事中/これは本堂(江戸時代中期建立)の解体修復事業らしい





様々な石造物もあるようだ

# 富貴寺大堂周辺案内





富貴寺大堂/平安時代末建立/国宝

 [video](#)





桁行三間、梁間四間/屋根は一重の行基葺きの宝形造





正面三間と左右の手前二間、背面の中央一間には両開きの板戸が嵌められ、建物の周囲には縁が巡らされている





柱は角柱だが、幅広く面取りされた大面取/斗拱は舟肘木で、垂木は二重の繁垂木

 [video](#)





舟肘木





それでは時計回りに回ってみよう

[video](#)

























背面/付け足しの下屋がある





そこで、右手を見たところ

 [video](#)





背面から正面方向に見たところ





そこで、右手を見たところ









正面から背面方向に見たところ

 [video](#)





背面にあった看板/その下には五輪塔群がある



その右手の階段を登ると「奥の院 薬師岩屋」があるようだ





## 奥の院 薬師岩屋

自然の岩を削り、壇を刻み、石造の薬師如来を安置されています。江戸時代の文献では「半身朽ち果てた木造仏がある」とされるが現在是不明。

また、薬師堂一間四尺瓦葺き、仏壇二尺引戸有、木仏、木仏十体などと書かれており、当時は小さなお堂があり、現在本堂に安置される薬師三尊、十二神将が祀られていたのではないかと思います。

現在安置される石仏は2体とも薬師如来。これにはいわくがあります。霊験あらたかな薬師如来として文化年間（1804～1818）に盗難にあつたのか、にわかになくなってしまったそうです。そこで村のものが仏師にお願いして新しく刻んでもらい安置しました。ところが1年ほどたつていつのまにか岩屋に返ってきていたため2体になったそうです。

古くより薬師如来は心身の病を癒していただける仏さまとして信仰されており、富貴寺薬師岩屋の薬師如来も「お薬師さん（おやくっさん）」の通称で古から現在まで深く信仰されています。

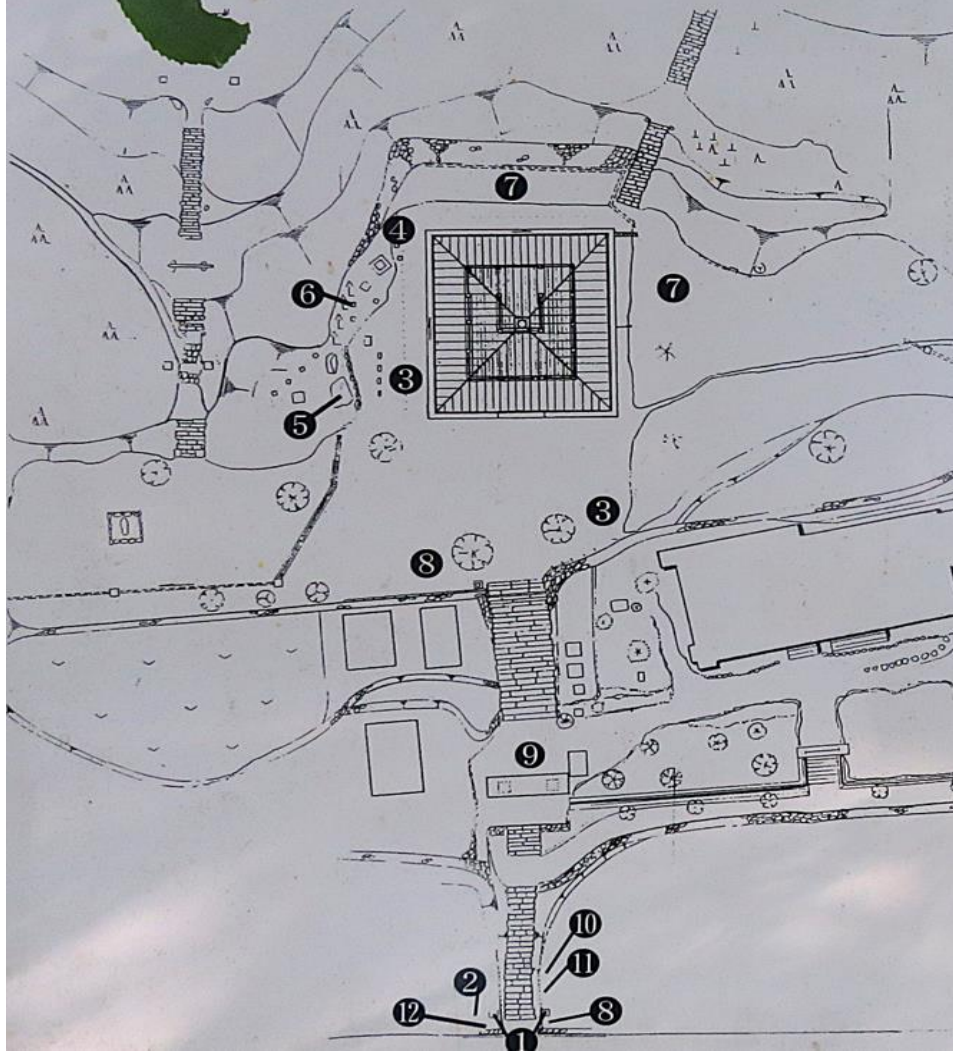
2～3分で上がれますが自信のない方はこちらから手を合わせて無病息災、当病平癒をご祈念下さい。





様々な石造物がある/上記の看板の下は⑦五輪塔群

# 富田境内石造物位置図



- |   |   |                                  |
|---|---|----------------------------------|
| ① 石殿 <small>せきでん</small> (県指定)<br><small>くにさきとう</small> | ② 板碑 <small>いたひ</small> (県指定)<br><small>しゅしいし</small> | ③ 笠塔婆 <small>かさとうば</small> (県指定) |
| ④ 国東塔 (市指定)   | ⑤ 種子石<br><small>いしとうろう</small>                        | ⑥ 十王像                            |
| ⑦ 五輪塔群  | ⑧ 石燈籠   | ⑨ 仁王像                            |
| ⑩ 庚申塔<br><small>こうしんとう</small>                          | ⑪ 不動明王石仏 (地藏石仏)                                       | ⑫ 石幢<br><small>せきどう</small>      |



(笠塔婆)



(国東塔)



(笠塔婆)



(庚申塔、不動明王石仏、石殿)

豊後高田市



こちらは③笠塔婆/大分県指定有形文化財/鎌倉時代中期造立





八臂弁才天(右手)と文殊菩薩(左手)





## 八臂弁才天（宇賀弁才天）

正徳六年（1716）の年号や施主の名前が彫られている。

言語の「サラスバティー」はインドの聖なる川とその化身の名前。次第に芸術、学問など知を司る女神といわれるようになった。

八本の腕（八臂）に弓、矢、刀、鉾、斧、長杵鉄輪、縄索、宝珠を持っています。頭上におじいさんの頭、蛇の体の宇賀神（蛇や龍の神様）を乗せたお姿の弁才天を宇賀弁才天と呼び、芸術、学問だけでなく福德、財宝をもたらすとして古くより信仰されています。

## 文殊菩薩

造立年代不明

「三人寄れば文殊の智慧」で有名な菩薩です。正式名称は文殊師利。多くの仏典にて仏に代わり説法するほど智慧を完全に備えた菩薩様です。智慧を司り、お授けされるとされ、古くより信仰されています。



奪衣姿・十王像/豊後高田市指定有形文化財





## 奪衣婆・十王像

かつてこの村にあった地藏堂に祀られていたといわれています。現在阿彌陀堂の左奥に安置されている石仏の地藏尊（応安元年1368）を本尊としたお堂で、地藏尊の左右にこちらの十王、奪衣婆などが祀られていたそうです。地藏堂は寛文年中（1661～1673）に再興されたところなのでそのころにはまだ富貴寺の境内にはありませんでした。地藏堂無き後こちらに移されたのでしょうか。

## 十王像

道教や仏教で、地獄において亡者の審判を行う十尊。亡くなった後、死者は行き先が決まらない中陰と呼ばれる存在になり、初七日から四十九日、百か日、一周忌、三回忌には順次十王の裁きを受けることとなるという信仰。亡くなった日から初七日、四十九日に行う仏事は中陰法要といい、インドの經典にも見られます。百か日、一周忌、三回忌は中国の風習に由来します。七回忌、十三回忌、三十三回忌は日本に入ってから風習です。亡くなってすぐの魂は不安定であるとされ、その魂を鎮めるために法要を行うようになったようです。

四十九日で亡くなった方の行き先が決まるとされており、その後の法要は亡くなった方の冥界での安穩を祈る追善供養とされます。十王の本地は十三仏とされており当てはめると次の通り。

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| ① 初七日、秦広王（不動明王）  | ② 二七日、初江王（釈迦如来）    |
| ③ 三七日、宋帝王（文殊菩薩）  | ④ 四七日、五官王（普賢菩薩）    |
| ⑤ 五七日、閻魔王（地藏菩薩）  | ⑥ 六七日、變成王（弥勒菩薩）    |
| ⑦ 四十九日、泰山王（葉師如来） | ⑧ 百か日、平等王（観音菩薩）    |
| ⑨ 一周忌、都市王（勢至菩薩）  | ⑩ 三回忌、五道転輪王（阿彌陀如来） |
| ⑪ 七回忌、阿閼如来       | ⑫ 十三回忌、大日如来        |
| ⑬ 三十三回忌、虚空蔵菩薩    |                    |

## 奪衣婆

亡くなった後、三途の川で死者の衣服を奪い取る老婆。奪い取った衣服は「懸衣翁」という老爺によって川のほとりの木にかけ重さをはかられる。死者の衣服の重さは生前の行いによって変わり、その重さによって死後の処遇を決めるとされる。その他にも三途の川を渡る渡し賃の六文銭を持たずに来ると衣服を奪われる、閻魔王の妻など様々な説があったようである。



国東塔/豊後高田市指定有形文化財/室町時代前期造立





# 国東塔

(くにさきとう)

国東半島は石塔、石仏の宝庫と言われています。中でも最も国東半島を特徴づける石造物は宝塔の一種である国東塔です。

国東塔は塔身下に「請け花」、「反り花」の蓮華座を設ける特異な形態を持ちます。鎌倉時代後期から南北朝前半にかけて六郷満山寺院に大型のものが建てられました。塔身上部には奉納孔があり、経典を納める宝塔として建てられたことがわかります。後世には墓標化していきます。

隣の小さな国東塔は墓標として建てられており、慶長八年(1603)の銘が残っています。



こちらは大分県指定有形文化財の板碑





# 富貴寺の大榧の木の話 — 11

むかしむかし、田染の路の谷に大きな榧の木が一本ありました。この木の大きいことといったら、その影が朝は隣村の河内地区に及び、夕べには反対側の田原地区に達するほどでした。

仁聞菩薩様がここに霊場を開こうとして、この榧の木で大堂を建て、仏像を刻もうとなされました。さて、いよいよ木びきがこの榧の木を伐ることになりましたが、不思議なことに伐っても伐っても次の朝にはもとどおりに戻っていました。木びきが困っていると、ヘクソカズラがやってきて、「木から出てくるおがくずをその日のうちに焼いてしまうと倒すことができますよ」と教えてくれました。木びきは、言われたとおり

にして、やっと榧の木をきり倒すことができました。

さて、仁聞菩薩

様は、この木で仏像を刻まれ、大堂

は竹田の番匠に命

じて建てさせまし

た。これが、国宝

富貴寺であり、今

でも多くの信者に

親しまれています。

境内には今でも榧の木が植えられています。

